

車と情報伝達

岡村 総吾*

The Automobile and the Information Transmission

Sogo OKAMURA*

東京のような大都市に居住している筆者にとって、最も切実な交通問題は都市交通である。毎時100キロメートル以上のスピードの出せる自動車に乗って、混雑する都内を毎時20キロメートル程度のスピードで走ったり、場合によっては暫く止まったまま動けなかったりするの、全く馬鹿馬鹿しい話である。また、わが国の道路標識や、町名・番地等の標識は未だ不備であるから、初めての土地で、地図を片手に運転しながら、目的地に到達するには大変苦勞が伴う。このような時には、つい間違っただけで一方通行道路に反対に入ったり、所番地を探すのに気をとられて、事故を起こしそうになって、冷汗をかくたりすることがある。

都市交通については、ある一定の区域で電気自動車のみを利用するとか、計算機制御の新しい交通システムを開発するとか、いろいろの提案があるが、それはその方面の専門家にゆずることにして、とりあえず必要を感じるの、自動車への適切な情報伝達である。

最も簡単な情報はラジオによって得られるが、現在のラジオでは時々交通情報を流すだけで、十分な情報が得られないし、特に局地的な交通情報を得ることはできない。現在のわが国のように、多数の放送局がありながら、どのチャンネルを選んでも、似たような番組を放送していることを思うと、ひとつくらい一日中交通情報のみを放送する局があっても良さそうに思う。またさらに電波に余裕があれば、場所場所により、極めてローカルな交通情報、例えばどこの路地でガス工事があって通れないとか、どこは混雑しているから避けた方がよいとかの情報を放送しては如何であろう。

さらにもっと十分の交通情報を伝えるために、テレビ放送によって、ブラウン管に地図を示して、各種の情報を与えることも考えられる。

以上は放送によって一定の情報をある地域内に存在する車に与える方式であるから、車の所有者は比較的安価な受信機を備えるだけでよい。しかしさらに進んで個々の車から、その必要とする情報を問合せ、その返答を求めようとする、多くの周波数幅を持った電波を必要とし、また個々の車に備えつける装置の価格がかなり高価になることが予想される。現に電電公社では自動車から発信できる自動車電話のシステムを開発し、技術的に実用し得る成果を得ている。この方式が広く普及して、多くの需要が生じるようになれば、多量生産により装置の価格もかなり低下すると思うが、それまではちょっと一般の個人が購入することをためらうような値段になりそうである。今後経済的にもこのようなシステムが可能となるよう、実用的な安価な装置の開発が望まれると共に、将来の電波の利用の増加に備えて、電波の有効利用や、新しい周波数帯の電波の開発に努力すべきであろう。

さらに一步進めて、現在交通機関によって行なわれている、人間や物質の輸送を、通信・放送等の情報伝達手段によって、どの程度減少させることができるかを検討し、それにより、エネルギーや天然資源の節約に寄与できるよう、新しい社会システムを開発することを考慮することも、今後の重要な課題ではなかろうか。

*東京大学教授(電子工学)
Professor, Univ. of Tokyo